

鹿児島の昆虫45

沖永良部島初記録のホリイコシジミが発生

昆虫担当 金井賢一

11月6日、科学技術振興機構の支援を受けたサイエンス・パートナーシップ・プログラムの一環として沖永良部島に出向き、沖永良部島では初記録となるホリイコシジミを採集しました。その後12日から18日まで移動博物館事業での在島中に産卵や幼虫を見て、発生していることを確認しました。今回はその様子を紹介します。



ホリイコシジミの産卵

ホリイコシジミは日本産チョウ類の中でもっとも小型の種の一つです。本来はインド、スリランカからオーストラリアにかけての東洋熱帯に広く分布し、日本に近いところでは台湾やミクロネシアにも分布しています。沖縄県では時々発生していましたが、鹿児島県では2007年に指宿市開聞町で迷蝶として採集された記録のみが知られていました。

しかし2013年9月から沖縄本島で広範囲に

わたって発生しており、さらに10月には与論島でも初採集されていきました。このことから、今回の沖永良部島訪問で発見できる可能性が高かったのです。

本種は、ヤナギバライソウやランタナの蕾に卵を産み、幼虫は蕾や花、柔らかい種子などを食べて成長します。今回沖



ランタナの花を食べる幼虫

永良部島で多数の個体を確認できたこと、卵や幼虫を確認できたことで、この島での発生が確認できました。

来年の春まで生き残り、発生が続くのかどうかを、ぜひ沖永良部島の方々に調べて欲しいものです。安易に「温暖化のせいで南の生きものが分布を北上させた」とは言わず、しっかりと状況を確認しながら生物の分布の移り変わりを記録すること、それが正確な自然の理解につながります。

鹿児島の動物33

アブラボテって知ってますか？

動物担当 山田島 崇文

アブラボテとは、ずばり！タナゴの仲間の淡水魚です。タナゴの中でも、重油のような黒い色をした、腹部がふくらんだ形の魚という意味です。このアブラボテは、朝鮮半島や西日本などにいますが、出水平野付近が自然分布の南限です。なお、出水の人たちは、昔からこの魚をシビッチョと呼んでいます。

全長4～7cmくらいで、1対の口ひげがあります。産卵期はだいたい4～8月くらいで、このころはオスとメスの違いがはっきりします。オスには、口の上に白いこぶのようなものができます。これを一般に「追星」といい、成熟したオスの証拠です。キンギョなど他の魚にも現れますが、小さかったり、分散したりしているのでわかりづらいです。また、ヒレにオレンジ色の縦



オスの追星

条（頭から尾に向かう方向

のライン）ができます。これは婚姻色と呼ばれるもので、オスだけに現れる美しい体色です。一方のメスには追星や婚姻色はなく、黒くて長く伸びた産卵管があります。

なぜメスのからだから長い産卵管が伸びているかというと、イシガイ科のマツカサガイなどの二枚貝に卵を産むからです。



メスはこの産卵管を黒くて長い産卵管貝の水管に入れて、卵を産みます。そしてオスは同じ貝の水管付近で精子を出して、貝に吸い込ませます。卵と精子は貝の中で受精し、やがて稚魚が産まれると、しばらく貝の中で育ちます。

これまで4年間観察していますが、残念ながら産卵や稚魚を確認できていません。現在展示中のメスには、もうすぐ冬なのに産卵管が伸びています。今度来館して、じっくりと観察してみませんか。